

クラス	TU311	担当教員	東内 瑠里子
テーマ	乳幼児の生活体験（自然、食、生活習慣、関わり）と保育実践研究		
著書・論文	【保育分野】東内「第7章 数や文字等への興味」『保育内容シリーズ 領域「環境」』2018年2月、東内「第2章 社会に開かれた教育課程のマネジメントとは 2節 地域資源は、どう活用すればよいのか」『マネジメントする保育・教育カリキュラム』教育情報出版、2018年9月など。		
研究課題等	【子育て支援分野】東内「第2章 ファミリー・サポート・センター事業の課題と展望 2 支援者養成の課題—アドバイザーの専門性を支える国・自治体の条件整備の必要性」『「ファミサポ」の安全を考える八尾市乳児死亡事故を教訓に』2018年10月など。		
ゼミナール概要			
キーワード：キーワード：乳幼児の生活、自然、食、生活習慣、関わり			
<p>目的： 本ゼミは、3年次に、美浜町の季の野の台所（農園）における「森のようちえん」の運営を通して、実際の親子とのかかわりから、子どもの自然認識の発達理解や、保護者理解、学生自身の実践力を養うことを目的としている。</p> <p>学習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①乳幼児の生活体験（自然、食、生活習慣、関わり）と保育実践研究の先行研究・先行実践を整理できる。 ②自然の中での子どもの遊びを援助でき、子ども以上に自らも遊ぶことができる。 ③子どもの姿の記録を書き、実践を評価できる。 ④保護者に寄り添い、子育ての応援団として、関わるができる。 ⑤森のようちえんの運営に関わりながら、関係者との対話を通して、企画・準備・実践・評価・改善を行うことができる。 <p>内容、方法、授業計画等 毎回、子どもの姿を記録し、子どもの発達について議論していく。<u>時間割上のゼミの時間だけではなく、月1回、土曜日に活動を行う。</u></p> <p>「森のようちえん」の1日の流れは、自由遊び→主活動→自由遊びである。子どもは自然の中に入ると、自分から遊びを発見したり、創造したり、友達の遊びを模倣したりしながら、自分を育てる力をもっている。学生は、子どもと保護者の両方に関わり、その姿から学ぶ。1年間の主活動の流れを大まかに「出会い」「ふれあい」「共同」「生活の創造」「文化の創造」という6つのステップに位置づけているが、企画の詳細については、ゼミ生のアイデアを取り入れながら運営を行う。以下は、2019年実績である。</p> <p>第1回は「出会い」をテーマに、4月に実施した。人との出会いと、自然との出会いを経験するために、初めて出会ったもの同士で、身の回りにある野草での料理づくりや、卵を孵化器にいれる活動を行った。美浜の身近な自然に、自生の食べられる雑草が多くあることを認識した。また、9月の「命をいただく」活動に向け、この日から卵を育てはじめた。</p> <p>第2回は、「ふれあい」をテーマに、5月に実施した。田植え前の水のたまった田んぼでヨガをした。泥だらけになって、親子と学生で遊び、ふれあいを促した。</p> <p>第3回は、「共同」をテーマに、7月に実施した。そうめん流しを実施した。竹林から竹を伐採し、箸や皿、そうめんがしの竹を準備する中で、参加者が力を合わせて活動した。</p> <p>第4回は、「生活の創造」をテーマに、9月に実施した。卵から育てた鶏の命をいただく活動を実施した。自分たちの手で、食生活を直接作り上げることを体験した。</p> <p>第5回は、「文化の創造」をテーマに、10月に実施した。竹でのスタードーム作りを実施した。生活を創る主体としてだけでなく、文化を創る主体であることの認識を、参加者と共有した。</p> <p>第6回は、「ふりかえり」をテーマに、12月に実施する。焼き芋やピザなど火をつかった料理づくりを実施する。温かい料理を囲みながら、これまでの活動を振り返る。ふりかえり際には、これまでの活動での学びを写真と資料で提示しながら、一人ひとりが感じたことを交流したい。</p> <p style="text-align: right;">以上で培った実践知を踏まえ、4年生では、卒業研究に取り組む。</p>			
担当教員からのメッセージ			
まず自然が好きな人、そして謙虚に子どもや保護者および友達から学ぶ姿勢のある人、友達の学びを共に支えあおうとする姿勢を持てる人を募集します。			